

「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026 年度 （選抜区分：一般選抜 後期日程） 経済学部 （科目名：小論文）
<p>今年度の一般後期日程の小論文では、西垣通『超デジタル世界—DX、メタバースのゆくえ』（2023年、岩波新書）から一部を抜粋して課題文としました。この課題文は、近年のDX（デジタル・トランスフォーメーション）に見られる「新しさ」と、それを社会的に推進することのリスクについて、ネット・インフラのオープン性という観点から論じた箇所です。</p> <p>課題文では多くの技術的なIT用語が出てきますが、注釈も含めて丁寧に読み込めば専門的な知識がなくとも著者の主張を理解することができます。また筆者が指摘する通りDXは、現在、ビジネスのみならず、私たちの生活にも大きな影響を与えています。課題文の内容は、高校生がDXを理解し、そのリスクを身近な問題として考えるうえで必要な内容です。</p> <p>設問1および設問2は、課題文の内容を十分に理解した上で、制限された字数内で簡潔に要約する力を試す設問です。課題文の中で展開されている論理を理解することが求められます。設問3は、課題文の内容を踏まえたうえで、自身の考えを文章で論理的に表現する力を試す設問です。</p> <p>設問1 DX と呼ばれる変革の新しさとは何か。筆者の主張にもとづき 100 字以内で説明しなさい。(40 点)</p> <p>解答例</p> <p>オープンなネット・インフラを介して、組織の担当者や技術者ばかりか、一般の人々がコンピュータのユーザーとなったことで、企業だけでなく、官庁も、学校も、病院も、それぞれの活動が大きく変革されたこと。(97 字+字下げ 1 字)</p> <p>解説</p> <p>DX の「新しさ」について説明しているパラグラフの内容を簡潔にまとめることを求める設問です。この設問に対して適切に解答するためには、従来、「組織の担当者や技術者」に限られていたコンピュータユーザーが、2000 年代以降（「ウェブ 2.0」以降）、「一般の人々」に広がり、この結果、企業にとどまらず、官庁や学校も ICT を用いた諸活動の変革が可能となったという、筆者が示す事実関係を正しく理解する必要があります。</p> <p>設問2 下線(1)に関して筆者は、クラウドサービスがオープンソースやオープンデータを利用した場合の問題を指摘している。この問題について、筆者の考えを、オンプレミスのクローズドなシステムと対比させたうえで、250 字以内で説明しなさい。(60 点)</p> <p>解答例</p> <p>オンプレミスのクローズドなシステムであれば、設計段階で動作環境の大枠を見定められるので、ミス予測しやすい。それに比べ、オープンなクラウド処理を経るクラウドサービスは、想像を超えた大規模なミスがいつ発生するか、それが対処可能なミスか、誰もわからなくなりがち</p>	

であるという問題がある。なぜなら、クラウドサービスで用いられるプログラムは、オープンソースを組み合わせて開発されたものもあり、またクラウドサービスは真偽が未確認のオープンデータにもとづく処理を経て提供されるかもしれないからである。(243 字+字下げ 1 字)

解説

設問 2 が示す内容につき、課題文から該当する箇所を探し、その内容を簡潔に要約する設問です。この設問に対して適切に解答するには、想像を超えた大規模なミスがいつ発生するか、それが対処可能なミスか、誰もわからなくなりがちになる問題があることを、その理由とともに説明されていなければなりません。

設問 3 オープンなネット・インフラを利用しながら生活することによって生じるメリットとデメリットについて、あなたの経験をもとに具体的な事例をあげ、400 文字以内で論じなさい。
(100 点)

解答例

高校で行った「探求型学習」で私はクラスメートと地元の歴史について調べることにした。ただ、私たちには基礎知識がなく、調査するにあたって、どこに焦点をあてればよいのかわからなかった。そこで私たちは、「生成 AI」を利用することとした。これを利用するメリットは、効率的に必要な情報やアイデアを取得できる点にある。実際、私たちは地元の歴史に関する知識を AI から教わるだけでなく、「探求型学習」にふさわしいテーマもアドバイスしてもらうことができた。

ただ、一方で AI を利用するデメリットも実感した。AI が教えてくれた情報は、一見、正しいように思えたが、情報源や根拠が曖昧で、探求を進めていくと、誤った情報がいくつか見つかった。幸い私たちはそのことに気づけたが、誤りがあることに気づいたことで、すべての情報をひとつひとつファクトチェックせざるを得なくなり、これに相当な時間を費やすことになった。

(385 文字+字下げ 2 字)

解説

設問 3 に対して適切に解答するためには、オープンなネット・インフラに依拠した自身の生活の中から、設問に適した事例を選び取り、そのメリットとデメリットの両方を示す必要があります。インターネットや SNS に慣れ親しんでいる高校生にとっては、身近なところから具体例を想起できる点で取り組みやすい問題であると言えます。

ただしテキストでは、ネット・インフラのオープン性が主題となっており、単に情報通信技術を活用することのメリット・デメリットではなく、ネット・インフラのオープン性に関わるメリットとデメリットを、自身の経験をもとに論じなければなりません。

唯一の解答はなく、課題文と整合的な範囲で多様な解答が許容されます。設問に対して適切に論じていること、自身の考え方を適切に表現していることが大事です。